

幼稚園受験・小学校受験に対する母親の意識について I

－受験希望の家庭と希望していない家庭の比較－

○高見 令英 ・ 横山 範子・金子 さつき ・ 横山 知弘 ・ 徳田 克己
(国際武道大学) (桐花教育研究所) (筑波大学附属豊学校) (筑波 大学)

I はじめに

幼稚園受験や小学校受験は、その準備や導き方を誤れば子どもに大きな害を及ぼす。しかし、子どもに無理をさせず、「受験を通して子どもを伸ばす」ようにして適正な方法を用いれば、受験は子どもが大きく伸びるチャンスにもなり得る。これまでの多くの保育研究者は、幼児期の受験そのものを「悪」としてとらえ、その内容を十分に把握しない状況において、すなわち研究者として最も犯してはならない「データ不足の状況において」、あるいはマスコミ等において流される「誤った情報をもとにして」、受験に取り組む親子やそれにかかわる関係者を批判の対象としてきた。また不適切な受験への取り組みを行った結果、子どもに生じた問題や家族関係の問題を、受験に取り組んでいるすべての家庭にあてはまるかのごとく、拡大して言及することがしばしばある。現代の教育現象である幼児期の受験をとらえて、「幼児に受験勉強をさせるとはけしからん」という念仏的批判を繰り返すばかりでは、誤解やネガティブなイメージを持たれた子どもと親はますます追いつめられるのである。

受験に取り組む子どもと親を誤解の渦から救い出すには、かつて高校入試や大学入試がそうであったように、入試のあり方や出題される問題について検討されなければならないのである。私たちは、ここ最近10年の間に、幼児期の入試や早期教育に関わる研究を継続的に、日本保育学会や桐花教育研究所研究紀要に発表してきた。本報告もその一連の研究のひとつである。具体的には、首都圏に住んでいる0～6歳児の母親を対象にして、幼稚園受験・小学校受験に関する意識を調査し、受験希望のある家庭とない家庭の比較等をおこなった。

II 方法

1. 調査対象者および回収率

東京都、神奈川県、千葉県に住む0歳～6歳までの幼児 232名(0歳児1名、1歳児38名、2歳児66名、3歳児57名、4歳児24名、5歳児17名、6歳児17名、不明12名、男96名、女128名、不明8名)とその母親を対象とした。対象者は、ボム・ド・クール幼児クラス(受験を目的としない体育系幼児教室)および桐花教育研究所に所属している者 350名に無記名の質問紙調査への回答を依頼し、回答済質問紙を回収できた者であった。したがって、回収率は66.3%となる。

対象とした幼児のうち、ひとりっ子 140名(60%)、ふたり兄弟の上が41名(18%)、下が30名(13%)であった。また、4人以上の兄弟は皆無であった。

2. 手続き

対象児の母親に、調査協力の依頼状とともに質問紙

を子どもを通じて母親に渡し、担任教師が回収した。反応の歪みを最小限に抑えるために、調査はすべて無記名で行われた。調査は1997年9月に実施された。

3. 質問項目

- *子どもの年齢、性別、兄弟の有無
- *父親・母親の学歴、母親の勤務状況
- *父親・母親の受験経験
- *幼稚園受験・小学校受験を考えているか
- *子どもの習いごとの数、種類、費用
- *受験に関する意識を問う24項目(7段階評定尺度)
- *有名大学附属小学校への入学願望とその理由

III 結果の概要

すべての対象者のうち幼稚園受験・小学校受験の希望(予定)があるのは 203名(全体の88%)であり、受験希望がないのは27名(12%)であった。

ここではまず、この2群の比較を行いたい。以下に特徴のある結果を箇条書きで示す。

- ①受験希望を年齢別にみると、年齢によって大きな違いはない(表1)。つまり受験を希望する家庭では子供が1歳の頃から受験を意識しているのである。
- ②両親の学歴や受験経験には大きな違いはみられないが、受験しない家庭(以下、受験群)の両親の幼稚園と小学校受験の経験が受験をする家庭(以下、非受験群)の両親に比べ少ない傾向がある(表2)。(父親の幼稚園と小学校受験経験、母親の幼稚園受験経験について2群の間に統計的有意差あり)
- ③習いごとの平均の数は、受験群 1.9、非受験群 1.3であり、統計的に有意な差が確認された($t=3.74, df=44.94, P<0.01$)。習いごとの種類については、両群には違いがなく、多い方から、スイミング、体操、ピアノ、英語の順であった。もちろん、今回のデータは幼児教室の協力によって収集しているために、対象者全員が幼児教室に通っていることになる。なお、表3の「勉強」とは、計算や文字を教えることを目的とした教室のことである。
- ④1か月にかかる習いごとに費用はひとつにつき1万円以下がほとんどである(表3)。体操と英語は月謝の幅が大きい。
- ⑤習いごとの開始年齢について、スイミングは1歳半以前に始めるケースが多く、英語も1歳以前に開始したケースが6例あった。体操は2歳以降、ピアノは2歳半以降に始めるケースがほとんどであった。
- ⑥8項目の意識について、2群の間に統計的な有意差が確認できた(図1)。受験群の母親は、受験を通して子供を伸ばせることを確信しており、また親は子供にお金をかけ、教育や遊びに積極的に関わるべきであると考えていることがわかった。

表 1. 年齢別受験希望

年 齢	受験する
0～1 歳	3 5 名 (90%)
2 歳台	5 5 名 (83%)
3 歳台	4 6 名 (82%)
4 歳台	2 2 名 (92%)
5～6 歳	3 3 名 (100%)

表 2. 親の学歴（上段）・受験経験（下段）

	受験する家庭 (203)		受験しない家庭 (27)	
	父親	母親	父親	母親
高校卒	9名 (4%)	13名 (6%)	3名	4名
大学卒	159名 (79%)	151名 (75%)	19名	17名
大学院	37名 (13%)	6名 (3%)	3名	0名
その他	6名 (3%)	32名 (16%)	2名	6名
幼稚園	28名 (14%)	40名 (20%)	0名	1名
小学校	48名 (24%)	30名 (15%)	1名	2名
中学校	59名 (29%)	69名 (34%)	6名	7名
高校	115名 (57%)	112名 (55%)	20名	18名
大学	91名 (45%)	91名 (45%)	19名	8名

表 3. 習いごとの種類による月謝額（上段）と習いごとを始めた年齢（下段）

	スミナ	体操	ピアノ	英語	絵	リトミック	勉強	バイオリン	音楽	サッカー	バレエ
データ数	4 7	4 6	1 8	1 6	1 2	1 2	1 2	6	4	3	3
5000 円以下	4	1 1	4	4	2	2		1		1	
5001 ～ 8000	3 8	2 2	9	2	5	7		1	2	2	2
8001 ～ 10000	5	2	1	3	5	1	1	1			
10001 ～ 15000		2	4	3		1	4	3	2		1
15001 ～ 20000		5		2		1	1				
20001 円以上		4		2			6				
データ数	4 6	4 6	1 7	1 6	1 4	1 2	1 2	6	4	3	3
6 か月未満	1 0			2							
6 か月～1 歳	1 3			4		1	1				
1 歳～1 歳半	7	4			1	1	1				
1 歳半～2 歳	4	7	1	2		2		1			
2 歳～2 歳半	4	1 1	1	3		1	1	2	1		1
2 歳半～3 歳	3	2	7	1	1	3	7	2	1		
3 歳～3 歳半	1	5	3	1	1	2			1		
3 歳半～4 歳	2	4	2	1	4	2				1	1
4 歳～4 歳半	1	3	1		1		1		1	1	
4 歳半～5 歳		7	2	1	3					1	1
5 歳以上	1	3		1	3		1	1			

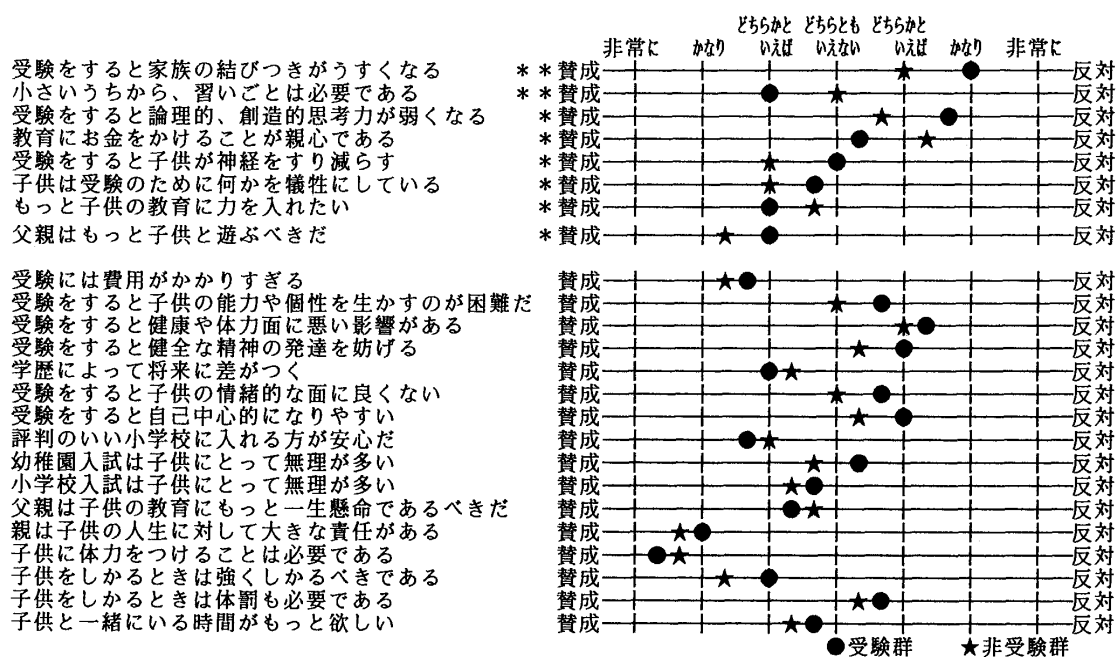


図 1. 受験・家庭教育に関する母親の意識の比較 (**は 1%水準で有意差あり、*は 5%、t 検定使用)